

# 菊谷百合子俳句集

• • •  
菊谷百合子さん  
昭和四年 東京 等々力生れ  
つくば市森の里在住



# 菊谷百合子 俳句集

(その一)

- 過去みんな美化されをりて雪の屋根
- 氷りつく道路にもなれて杖をつく
- 春静か三日目今日もテレビを見
- 自然界の恐れたつぷり春は逝く
- 鼻唄のリズムも軽く春はそこ



# 菊谷百合子 俳句集

(その二)

- 卯焼き母の味して梅雨気配
- 地震雲か今宵も眠れぬ梅雨の下
- 豆を撒く飛びゆく先は春の色
- 同じ木に白と赤とのつつじかな
- 年金の行く末不安春の嵐



# 菊谷百合子 俳句集

(その三)

- 菜の花のシャッキリ茹り皿の上
- どころなく春めく庭の石乾く
- 今朝は良し弥生の空の明るうて
- 鳥の声あふるし森の木々芽吹く
- 濃く甘く新茶に心静かなり



# 菊谷百合子 俳句集

(その四)

- 日も暮れて祭太鼓のひびき来る
- 湯上りに夏の匂ひを風運ぶ
- 花木僅明日も雨の降るかとも
- 夏らしき暑さ少しく秋匂ふ
- 夜来の雨あがりいやす緑かな



# 菊谷百合子 俳句集

(その五)

- 緑映ゆ息子の自動車に身を任す
- 己が影少し短くねぎ畑
- 忙しさよ日の暮れること早くして
- 地虫鳴く何慮の地にもそれなりに
- おだやかな秋の日続くホットして



# 菊谷百合子 俳句集

(その六)

- 風強し木犀の花ポロリポロ
- 山茶花の花又一つ葉の蔭に
- 鋏鳴らす片辺に止まる赤とんぼ
- 門入ればこの家も白菊黄菊かな
- 踏み経りし石段恐し散る落葉



# 菊谷百合子 俳句集

(その七)

- 秋日和賀状受けますポスト中
- 石路吹き黄なる花は盛りて咲く
- 満開に咲き誇る花土牛の絵
- 長閑さや三時の鐘のまだ余韻
- 雪柳木蓮椿雨に降る





# 菊谷百合子 俳句集

(その八)

- 久し振り桜を活けて悦に入る
- ひと時は孤独でありぬ初夏の午後
- 斎場の紫陽花見事あわれ咲く
- 朝な夕な優雅に飛べる夏の蝶
- ホトトギス遂には苦しき声となる



# 菊谷百合子 俳句集

(その九)

- 七夕の笹に夢つけ夢終る
- 一人居や筆の音吸う桔梗かな
- 老いて子に帰る吾なり
- 所在なくまた瓜を切る梅雨ごもり



